



唯物觀ヨリ唯心觀へ : 唯物史觀ノ立脚地ヲ明カニシ テ關博士ニ答フ(1)

河上, 肇

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 13(1):27-52

(Issue Date)

1912-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051892>



唯物觀ヨリ唯心觀へ（其二）

（唯物史觀ノ立脚地ヲ明カニシテ關博士ニ答フ）

京都法科大學助教授

法學士 河 上

肇

目	次
一、序 言	
二、科學的觀察	
三、因果原則ノ假定	
四、自然法則ノ支配	
五、勢力保存ノ原則	
六、法則ト理想	

一、序 言

本誌第十二卷第二號ニ關博士ノ掲ゲラレタル拙著『時勢之變』ノ批評文ニ對シ、余ハ同卷第四號ニ一文ヲ投ジテ、旁ラ博士ノ批評ニ答ヘ、旁ラ博士ノ示教ヲ乞フ所アリシニ、博士ハ更ニ本誌前號ニ於イテ、再ビ余ニ對スル質問ヲ詳述セラレ、余ガ答辯ヲ需メラレタリ。仍テ今マ机ニ向フテ此ノ一文ヲ起シ、一ハ以テ博士ノ盛意ニ應ヘ、一ハ以テ博士及ビ同學ノ示教ヲ待テ、余ガ蒙ヲ啓クノ一助ト爲サント欲ス。

博士ハ前記ノ一文ニ於イテ、余ニ向ヒ二箇ノ反問ヲ提出セラレタリ。其一ニ曰ク

『學士ハマルクスノ有名ナル「勞働者階級ハ實現スベキ何等ノ理想ヲ有セズ、
彼等ハ既ニ崩壞スベキ市民社會ノ内部ニ發展セル新社會ノ、要素ヲ解放スベ
キノミ」トノ主張ト唯物史觀トハ何等ノ關係ナシト認メラル、ヤ、マルクスノ
idealeト學士ノ practical idealトハ如何ナル相違ヲ有スルヤ』

其二ニ曰ク

『學士ハマルクスノ「各國ノ無產階級ヨ結合セヨ」ノ警句ハ唯物史觀ニ根柢ヲ
有セズト爲スカ。social changeノ原因ト social differenceノ原因トノ關係ハ如何。何
レガ社會人事變遷ノ根本原因ナリヤ。民族の特性ガ唯物史觀論ノ結果タル社
會革命ヲ防遏シ得ルトセラル、ヤ、將又然ラズトセラル、ヤ。』

博士ノ質問トセラル、所ハ必シモ此ノ二箇ノ問題ニ盡キザルガ如キモ、少クト
モ此ノ二箇ノ問題ハ、博士ガ具體的ニ余ノ答辯ヲ促サレタル所ニ屬ス。然ルニ余ハ
不幸ニシテ、此ノ如ク列記サレタル問題サへ、充分ニ其ノ意味ヲ解シ能ハザルコト
ヲ表白セザル能ハズ。例ヘバ、博士ハ余ニ向ツテ「社會ノ變遷ノ原因ト社會ノ差違ノ
原因トノ關係ハ如何、何レガ社會人事變遷ノ根本原因ナリヤ」ト反問セラレ居レド

モ、コノ反問ノ後節ヲ言ヒ換フレバ『社會ノ變遷ト社會ノ差違ト何レガ社會變遷ノ根本原因ナリヤ』ト云フコト、爲リ余ニトツテハ殆ド其ノ何ノ意味ナルヤヲ解シ得ザルガ如キ、其ノ一例ナリ。サレバ余ハ本論ニ題シテ、關博士ニ答フト爲シ置キタレドモ、實ハ博士ノ提出サレタル箇々ノ疑問ニ對シ一々明答ヲ爲シ得ルモノニ非ズ。又タ縱ヒ爲シ得トスルモ、ソヲ爲シ遂グルガ爲メニハ、重テ余ヨリ種々ノ反問ヲ提出セザルヲ得ズシテ、徒ニ貴重ノ紙面ヲ汚スコト、爲リ而シテ畢竟ハ、他人ハ勿論自ラ益スル所モ少カルベキガ故ニ、今ハ姑ク之ヲ見合セ、茲ニハ兎モ角モ余ガ唯物史觀ヲ唱フル其ノ根本ノ立脚地ヲ略說シ、以テ一切ノ疑問ニ對スル總括的答辯ニ充テントス。

扱テ以下余ノ述ブル所ハ、余ガ數年來濃氣ナガラ抱懷シ居タル意見ナレドモ、猶ホ其ノ此ノ如ク一應ノ纏リヲ成スニ至リタルハ、博士ノ批評ヲ受ケタル後、多少ノ思索讀書ヲ試ミタルノ結果ナリ。此點ニ於イテ余ハ先ヅ本論ノ冒頭ニ於イテ、深ク博士ノ刺戟ヲ感謝セザル能ハズ。

二、科學的觀察

一言ニシテ云ヘバ唯物史觀ハ人類社會ノ現象ヲ科學的ニ觀察スルモノ也科學

的ト云フテハ猶ホ足ラザラン、實ニ之ヲ自然科學的ニ觀察スルモノ也。

今マ科學ノ世界ハ死ノ世界ナリ、物ノ世界ナリ、即チ死物ノ世界ナリ。ソハ生ノ世界ニアラズ、靈ノ世界ニアラズ、即チ生靈ノ世界ニアラザル也。

死ノ世界ハ冷血ノ世界ナリ、温情ノ世界ニアラズ、科學者トシテハ此ノ冷血ノ世界ニ、微溫ノ血ヲモ混ズベカラズ、況ンヤ熱血ヲヤ。然リ、科學ノ世界ニハ只ダ赤色ノ液アツテ流ル、ノミ、本來血ナシ。苟クモ血ヲ混ユレバ、コレ死ノ世界ヲ變ジテ生ノ世界ト爲シ、物ノ世界ヲ變ジテ心ノ世界ト爲シ、科學ノ世界ヲ變ジテ哲學ノ世界ト爲シ、相對ノ世界ヲ變ジテ絕對ノ世界ト爲スモノ也。余ハ心ヲ有ス、乍併、科學者トシテノ余ハ、古今東西ノ人ヲ目シテ心アル者ト爲スコト能ハズ。聊カ無禮ノコトノヤウナレドモ、科學ノ壇上ニ人ヲ持チ來ル時ハ、其ノ賢人タルト聖者タルト、凡人タルト狂者タルト、貴族タルト家族タルトヲ問ハズ、余ハ之ヲ目シテ皆ナ無心ノ物體ト爲ス。コレ物理學者ノ酸素ヲ見、水素ヲ見ルガ如キ也。酸素水素合シテ水ト成ル、物理學者ハ只ダ之ヲ以テ物質ノ離合集散ト爲スノミ。酸素ト水素ト若シ心アリト見バ、其ノ合シテ水ト成ル、是レ彼等ガ相愛スルガ爲メナリ、相戀スルガ爲メ也ト考ヘ得ラレザルニ非ズ。而カモ斯ク觀察スルコトハ、既ニ科學者タルノ領域外ノコト也。落

花ニ心アリ、流水ニ情アリト見ルハ、詩ノ世界ノコトニシテ、落花流水共ニ之ヲ無心ノ物體ト爲シ、只ダ因果ノ關係ニヨリ、流水落花ヲ載セテ下ルト見ルガ、科學ノ世界ノ見方ナリ。科學者ノ立場ニ立タル余ハ、人ヲ見ルコト金、石、土、塊ノ如シ。彼等洪水ニ逢フテ濁流ノ間ニ出沒スルモ、余ノ見地ヨリセバ、彼等ト其ノ周圍ニ流ル、材木、家畜ノ類トハ、只ダ其色ヲ異ニシ形ヲ異ニスルノミ、等シク是レ濁流ニ浮ブノ物體ナリ。人アリ、涕泗滂沱タルモ、余ニ於イテハ、只ダ彼ノ顔面ニ一種ノ液體ノ流レ、又タ彼ノ顔面筋ガ一種ノ運動ヲ爲シツ、アルヲ認ムルノミ。悲哀ト云フ心ノ働キアルニ非ズ。彼自ラ悲哀ト云フ心ノ働キアリト思フハ、實ハ彼ノ眼ナリ、筋肉ナリ、神經組織ナリ、腦細胞ナリニ、何等カノ變化起リタルコトノ謂ナリト見ル也。縱ヒ心ノ働キニテモ、之ヲ物質ノ變化ニ翻譯シ、物質界ノ符號ニテ之ヲ言ヒ表ハサバレバ、其ノ存在ヲ認ムルコトナシ。他物ニ同情シ、我ニ心アルノ故ヲ以テ彼ニ心アリト爲スコトナシ。是レ科學者ガ物ヲ見ルノ見方ニシテ、此ノ如クニシテ始メテ科學ノ世界現ハルルコトヲ得。是ノ故ニ、科學ノ世界ハ冷眼ノ世界ナリ。慈眼ノ世界ニアラズ。科學者ハ冷、靜ナラザル可ラズ、感情ヲ混ユ可ラズナド云フノ要求モ、亦茲ヨリ生ズ。感情ヲ混ヘズ、同情ヲ加ヘズ、冷血無情眼ヲ以テ一切ノ事物ヲ觀ルト云フハ、之ヲ客觀的ニ見

テ主觀的ニ見ザルコト也。之ヲ外部ヨリ見テ内部ヨリ見ザルコト也。外部ノ或ル立脚地ヨリシテ其ノ表面ノ外形様相ヲ觀察シ知得スルニテ其ノ内部ニ入リ之ガ中心ヨリ其ノ内實ノ眞景實在ヲ直觀シ會得スルニ非ザル也。此ノ如ク事物ヲ科學的ニ研究ストハ其物ヲ客觀的ニ外部ヨリ見テ研究スルコト也。而シテ我ガ唯物史觀ハ斯カル科學的態度ヲ以テ人間ヲ見ントスル者ナリ。故ニ唯物史觀ノ世界ニハ只ダ人間ノ外相アルノミ其ノ内景ニ至ツテハ全ク之ヲ見ルコト能ハズ。人間ノ外相トハ他人ヨリ見テ如何ニ見ユルカト云フコトニテ其ノ内景トハ自分自身ニ如何ニ見ユルカト云フコト也。今マ其ノ内景ノコトハ姑ク舍キ之ヲ其ノ外相ニ就イテ述ベンカ人間モ亦ターノ物體ナリ。物體ナルガ故ニ一定ノ空間ト時間トヲ占ム。ソハ時空ヲ超越セル人格者 person ニアラズシテ時空ノ關係ニ聯結セラレテ存スル一ノ肉體 body ナリ。其者ニ靈妙思議スベカラザル底ノ意識ナルモノ無シ其ノ行爲ト云フハ實ハ物體ガ力ノ働キニ依ツテ運動スルニ過ギズ。夫レ科學ノ世界ニハ只ダ空間ト時間ト物ト力トアルノミ。故ニ科學的見地ヨリセバ或ル個人ノ他ノ個人ニ對スル社會關係モ將タ其ノ自然ニ對スル關係モ詮ジ詰ムレバ凡テ空間ト時間ト物ト力トノ關係ニ歸入シテ其外ニ出ヅル能ハズ。

此ノ如ク科學ノ世界ハ物質ノ世界ナリ。故ニ其ノ世界ノ事物ニハ、只ダ分量 quantity
ノ差異アルノミニテ、一切品質 quality ノ差異ナルモノ無シ。例ヘバ姑ク個人ヲ單位
トシテ其ノ社會關係ヲ研究ストセンカ、其ノ個人ナルモノニハ、貴人アリ、美人アリ、
聖者アリ、愚者アリ、白人アリ、黑人アルモ、科學者ノ眼ヨリスレバ、皆ナ何レモ同種類
ハ單位ナリ、單一平等ノモノ也。人若シ之ヲ疑ハバ、試ニ一二ノ例ヲ述ベテ其惑ヲ解
カン。例ヘバ彼ノ統計學ヲ見ヨ。其ノ男女數ノ比例ヲ論ズル、只ダ人ノ頭數ヲ見テ其
ノ質ヲ問ハザル也。等シク男子ト云ヒ女子ト云フモ、其ノ個人的差異ハ實ニ甚シキ
ニ係ラズ、大臣ハ其ノ屬官ト共ニ、富豪翁ハ其ノ家扶下男ト共ニ、各々一人分ト數ヘ
ラレ、貴婦人モ娼婦ト等シク、美人モ醜女ト等シク、大關モ一寸坊モ、老人モ小兒モ、亦
タ盡ク一人分ト算ヘラル。之ヲ統計學ノ個人ヲ取扱フノ法ト爲ス。又タ例ヘバ經濟
學ニ『經濟人』ヲ設クルモ之ト等シ。經濟學者ニシテ科學的法則ヲ立セントスル者ハ
皆ナ所謂『經濟主義』ノ原則ヲ立ツ。曰ク人ハ最小ノ犧牲ヲ以テ最大ノ報酬ヲ得ント
スルモノ也ト。此ノ如クニシテ、各個人ハ賢愚、美醜、貴賤、老若等、一切ノ特徴ヲ蟬脫シ
テ、盡ク皆ナ單一平等ナル『經濟人』ノ範疇ニ追ヒ込メラル。知ルベシ、經濟主義ノ原則
トハ、經濟學者ガ一切ノ個人ヲ平等單一化スルノ科學的手段タルコトヲ固ヨリ場

合ニ依リテハ、彼等ト雖モ個人ニ一定ノ差異アルヲ認ム。例ヘバ各個人ノ需要ハ同カラズト云フガ如シ。乍併、縱ヒ需要ノ差異ナルモノヲ認ムト雖モ、彼等ハ同時ニ、之ヲ以テ何等カノ量差ト爲サズンバ已マザル也。夫レ需要ナルモノハ本來純主觀的ノモノニテ、甲ノ需要ト乙ノ需要ト絶對ノ質差ヲ存シ、到底比較計量スベカラザルモノニ屬スト雖モ、而カモ經濟學者ハ、各個人ノ提供セル貨幣ヲ標準トシテ、之ヲ客觀化シ、物化シ、量化シ、以テ需要供給ノ法則ナルモノヲ立ツ。科學ノ世界ニ量差アツテ質差ナキコト此ノ如シ。更ニ生物學ニ就イテ考フレバ、學者ハ即チ細胞ナルモノヲ認メ、之ヲ以テ同種平等ノ單位ト看做ス。而シテ此ノ細胞ヲ以テ單位トセンカ、人ニ醜醜アリ、強弱アリ、賢愚アリ、才不才アルハ、皆ナ其ノ細胞組織ノ差異ニ本クニ外ナラズ。其ノ腦細胞ノ排列多寡如何ニ依ツテ賢愚才不才ガ分ル、ガ如ク、其ノ筋肉細胞、皮膚細胞ノ排列多寡如何ニ依ツテ美醜強弱ノ差異ヲ生ズルニテ、何レモ皆ナ畢竟ハ、物質的機械的ノ量差ニ本クニ外ナラズトセラル。此ノ如クニシテ一切ノ動物ハ「アミーバ」ヨリシテ人間ニ至ルマデ、皆ナ量差ヲ存スルノミニテ、遂ニ質差ヲ有スルコト能ハズ。更ニ進ミテ物理化學ニ入ランカ、學者ハ凡テノ有機物及ビ無機物ヲ分析シテ八十幾箇ノ元素ト爲シ、元素ヲ割ツテ原子ト爲シ、原子ハ更ニ割ツテ電

子ト爲シ、遂ニ一切萬有ヲ舉ゲテ一箇原子ノ離散集合ニ歸屬シ終ル。是レ品差ヲ譯シテ量差ト爲スノ極致ニシテ、今日ニ於ケル科學最後ノ立脚地ナレドモ、將來モシ電子ニモ亦タ品差アルヲ認ムルニ至ランカ、彼等ハ更ニ之ヲ割ツテ單一平等ノ單位ニ還元シ、此ノ如クニシテ還元シテ、苟クモ品差ヲ認ムルニ安ンゼザル也。

今マ唯物史觀ハ科學的ニ個人ノ社會關係ヲ觀察セントスルモノ也。是ノ故ニ我ガ唯物史觀ノ下ニ在リテハ、一切ノ個人亦タ只ダ量差ヲ存シテ品差ヲ存セズ。縱ヒ品質ノ差異ニ似タルモノアリト雖モ、ソハ皆ナ分量ノ差異ニ翻譯スルヲ得ルモノニテ、分量ノ差異ニ翻譯スルヲ得ザル品質ノ差異ニハ非ズ。サレバ、他ノ或ル見地ヨリセバ、億兆ヲ犠牲トスルモ猶ホ換ヘ難キ一箇天成ノ偉人モ、此ノ史觀ノ下ニ在リテハ、十人二十人ノ凡夫ヲ以テ直ニ之ニ當ツルコトヲ得、コレ此ノ史觀ノ下ニ於イテ、所謂『偉人』ナルモノガ大ニ其ノ價值ヲ失フ所以ニシテ、又タ從來廣ク且ツ久ク行ハレタル彼ノ『偉人』說、ナルモノガ、此ノ史觀ニ依リテ、極度ノ排斥ヲ受クル所以ナリ。

而シテ彼ノ科學的智識ヲ以テ實在ニ關スル絶對最高ノ智識ナリト信仰セル哲學上ノ唯物論者ガ、余ハ此ノ仲間ニ屬セス。偉人ヲ見ルコト極度ニ淺近ナルモ、亦タ這箇ノ消息ヲ齎スモノ也。頃ロ我國唯物論者ノ一人タル堺枯川氏、ルウソー自傳ヲ抄

譯シ、卷首ニ序シテ、吾人ハ偉人ノ偉人ラシカラズシテ、吾等凡人ト多ク相違スル所ナキヲ見テ悦ブト云ヘリ。偉人凡人ト相違スル所多カラザルニ非ザルモ、唯物論者ノ眼ヨリシテハ、左マデ多クノ相違アルヲ認ムベカラザル也。猶ホ此點ニ就キ序ナガラ一言シ置キタシト思フハ、マルクスノ價值論ノコトナリ。彼ガ「貨物ハ使用價值ニ就イテハ異リタル質ヲ有シ得レドモ、交換價值ニ就イテハ單ニ異リタル量ヲ有スルノミ」ト爲シ、遂ニ論ジ詰メテ「是ニ於テカ、吾人ハ、或物ノ價值ノ大小ヲ定ムルモノハ、其物ノ生産ノ爲メ社會的ニ必要ナル勞働ノ分量、又ハ社會的ニ必要ナル勞働時間、タルコトヲ知ルベシ」ト爲スニ至リタルハ、人ノ能ク知ル所ナルガ、是レ亦タ、忠實ナル科學的研究者ガ、品差ヲ量化セズンバ已マザル一ノ例證ト爲スニ足ルベシ。事餘談ナレドモ、思ヒ浮ブガマ、ニ一言シ置クモノ也。

科學ノ世界ガ物質ノ世界タルコトニ伴フ第二ノ重要ナル結果ハ、ソガ衝突、闘ノ世界タルコト是レ也。蓋シ物質ノ本性ハ、ソガ同時ニ同一ノ空間ヲ占メ能ハザルニ存ス。既ニ同時ニ同處ニ居ル能ハズ、故ニ其ノ必然ノ結果トシテ、彼等ノ間ニハ衝突アリ、爭鬪アリ。是レ無礙ノ大道坦々タル心界ノ光景ト正ニ相反スル所。是ノ故ニ、唯物觀ニ立ツテ人生ヲ見バ、ソハ「殘酷、無慈悲ナル、生存競爭」ノ修羅場ニシテ、正ニ悲

觀ノ世界ナリ。現ニ見ヨ、ホツブスヨリシテ、スベンサーニ至ルマデ、苟クモ人「生ヲ見ルニ嚴正ナル科學ノ冷光ヲ以テセントセシ者ハ、何レモ皆ナ人生ニ競爭、乃至爭鬪ノ到底避クベカラザルヲ確信セリキ。彼等ノ說ニ悲調アリ、其論ニ哀音アルコト、亦タ自ラナル結果ナリ。而シテ唯物史觀ヲ唱へ出セル我ガマルクスニ在ツテモ、其ノ唯物史觀ノ下ニ於イテハ、必然ニ階級爭鬪ヲ認メザルヲ得ザリシ也。故ニ曰フ『凡テ既往ノ歴史ハ階級爭鬪ノ歴史ニ過ギザル也』ト。而カモ茲ニ注意スベキハ、彼一タビ其ノ立脚地ヲ動カシ之ヲ唯物觀點ヨリ移シテ唯心觀點ニ置ク時、彼ニモ亦タ社會改造ノ理想アルコトヲ得、又タ其ノ理想ノ下ニ於イテハ『一切ノ階級、一切ノ爭鬪始メテ絶無ナルコトヲ得』ルノ點ニ在リ。彼ニシテ既往ノ歴史ヲ唯物觀的ニ外ヨリ顧ミ、限リハ、ソハ凡テ階級爭鬪ノ歴史ナリ。乍併、彼ニシテ一タビ唯心論的ニ將來ノ歴史ヲ心ノ中ニ望ム時ハ、ソハ全ク新紀元ヲ劃スル滲透無礙ノ別世界ニシテ一切ノ衝突ト爭鬪トハ凡テ絶無ナルコトヲ得、世人或ハ之ヲ以テ思想ノ矛盾ト爲スモ、元ト是レ矛盾ニアラズシテ觀點ノ變化ナリ。扱テ論ジテ茲ニ來ラバ、節ヲ改ムルヲ便宜トセン。乃チ法則ト理想ノ關係ノ如キハ猶ホ後節ニ到ツテ之ヲ詳論スベキ也。

三、因果原則ノ假定

科學ノ世界ハ靜止ノ世界ナリ。何トナレバ、既ニ述ブルガ如ク、科學ノ世界ハ物質ノ世界、死物ノ世界ニシテ、而シテ此ノ如キ物質死物ノ特徴ハ其ノ不動靜止ニアレバ也。而カモ事實ニ於イテ萬物ノ皆ナ動キツ、アルハ、其力ノ平衡、equilibrationヲ得ザルガ爲メナリ。サレド彼等ハ遅カレ早カレ斯カル平衡ヲ得テ遂ニ靜止ノ狀態ニ歸スベク、而シテ其ノ靜止ノ狀態ニ歸シタル時ハ、則チ彼等ガ自然ノ狀態ニ復シタルノ時ナリト考ヘラル。例ヘバ我が經濟學ニ於イテ、需要供給ノ平均ヲ說キ、價格ニ正常價格又ハ自然價格ノ觀念ヲ設クルガ如シ。

此ノ如ク、物體ハ本來靜止ノ狀態ニ在ルモノ也。故ニ其ノ運動ハ自動的ニ非ズシテ他動的ナリ、從テ之ガ運動ノ原因ハ必ズ之ヲ其ノ物體ノ外部ニ求メザルベカラズト考ヘラル。是ニ於テカ、一切ノ物ノ運動ハ他物トノ關係ニ於テ了解セラル、其物ト他物トノ間ニ存スル因果ノ關係ニ於イテ了解セラル。是ノ故ニ科學ノ世界ハ因果ノ世界ナリ、輪廻ノ世界ナリ、宿因ノ世界ナリ、定命ノ世界ナリ。一定ノ原因ハ必ズ一定ノ結果ヲ惹起シ、一定ノ結果ハ必ズ一定ノ原因ニ本ク。原因アツテ結果ナキコト無ク、且ツ其ノ結果ハ之ガ原因ニ應ジテ曾テ寸毫ノ出入増減アルコト無ク、又タ結果アラバ必ズ之ガ原因アツテ、且ツ其ノ原因ハ之ガ結果ニ應ジテ曾テ寸毫ノ出

入増減アルコト無シ之ヲ因果ノ原則ト爲ス。而シテ因果ノ原則ハ即チ一切科學ノ根本的假定ノ一ナリ。

只ダ茲ニ疑問ト爲ルハ、諸々ノ物質ハ皆ナ因果關係ニ依ツテ動クト云ヘド、其ノ動キ得ル力ノ源ハ何所ニ在リヤト云フコト也。蓋シ前ニモ一言シタルガ如ク、物質ヲ外部ヨリ見ル時ハ、ソハ當然ニ死物ナリ。生命ト云フハ物ノ内部ニ在ル力ノ謂ナレバ、物ヲ外部ヨリ觀察シテ其物ノ内部ニ力アリト看做スコト能ハズ。爾カ看做サバ、ソハ既ニ客觀的態度ヲ棄テ、主觀的態度ヲ採ル者ナレバ也。故ニ物ノ運動ノ原因ハ、必ズ之ヲ其物以外ニ求ムルガ、純科學的態度ノ要求スル所ナレドモ、而カモ次第ニ序ヲ追フテ原因ノ原因ニ遡リ行ク時ハ、如何ナル科學者モ遂ニ最後ノ窮所ニ陷ル。是ニ於テカ、或者ハ電子ト云フガ如キ物質ノ最小單位ニ一定ノ力アリト主張ス。乍併、其ノ主張ハ眞ノ假定ニシテ、縱ヒ假定タラズト云フモ、科學者トシテノ見地ヨリセバ、必ズ假定タラザルヲ得ズ。物ノ内部ニ力アリト云フコトハ、外部ヨリシテ只ダ之ヲ臆斷シ得ルニ止リ、到底何等ノ實證ヲ舉グルヲ得ベカラザレバ也。又タ或者ハ、自然法則ト云ヘルガ如キ捕捉スベカラザル或者ヲ物質世界以外ニ置キ、縱ヒ以外ニ置クニ非ズト云フモ、科學者トシテノ見地ヨリセバ、其ノ世界ハ物質ノミノ

世界ナルガ故ニ、ソハ必ズ世界以外ノ捕捉スベカラザル所ニ潜伏シ居リテ、此ノ物質世界ヲ支配シツ、アルモノナラザル可ラズ、之ヲ以テ一切ノ物質運動ノ源泉ト爲ス。乍併、是レ亦タ眞ノ假定ニシテ、縦ヒ假定タラズト云フモ、科學者ノ見地ヨリセバ、其ノ世界ハ皆ナ物質世界ナルガ故ニ、物質以外ノ或者ノ存在ヲ實證スルコトハ、彼等ノ到底爲シ得ザル所ナリ。之ヲ要スルニ凡テノ科學ハ、此ノ如ク其ノ最後ノ立脚地ヲ假定ノ上ニ置クモノナルガ、此事ハ、一切ノ科學ガ窮極、何等絶對ノ智識ヲ提供シ得ザル所以ニシテ、又タ哲學上ノ唯物論ノ到底探ルニ足ラザル所以ナリ。

ソハ兎モアレ、科學ノ世界ハ、物質ノ世界ナリ、因果ノ世界ナリ。而シテ今マ之ヲ人間ニ就イテ云フモ、亦タ全ク同ジ。苟クモ科學的ニ人間ノ行爲ヲ見バ、ソハ純然タル物體ノ運動ニ外ナラズシテ、其ノ一切ノ行爲ハ皆ナ因果關係ノ連鎖ヨリ成ルモノト謂フベク、是レ應テ其ノ行爲ニ所謂因果的法則ヲ立シ得ル所以ナリ。乍併、茲ニ注意スベキハ、斯ク觀察スルハ科學ノ壇上ニ人間ヲ持チ來リタル場合ニ限ラルト云フコト也。吾人ハ他人ノ行爲ヲ外部ヨリ觀察シテ之ヲ因果關係ノ連鎖ト見ルト雖モ、吾人自ラノ行爲ヲ考フル時ハ決シテ此ノ如キ見解ヲ探ルコト無シ。是レ個人ノ外相ト内景トノ相違ニシテ、恰モカノ「バノラマ」ヲ見ルニ、其ノ外部ハ一箇無趣味ノ

建築物ナレドモ、一タビ其ノ内部ニ入リテ見ル時ハ、山川草木ノ眞景一時ニ眼前ニ展開スルガ如シ。個人ノ内景トハ自身ノ行爲ヲ自身ニ見タル場合ノ光景ニテ、詳ク云ヘバ、自己ガ其ノ行爲ノ働因者^{エゼト}及ビ原造者^{オラヂイター}トシテ、現ニ今マ其ノ行爲ヲ爲シツ、アル際其ノ行爲自身ノ中心ニ立ツテ之ヲ見タル場合ノ光景ナリ。而シテ斯カル場合ノ光景ハ、先キニ述べタル物質世界ノ光景ト全ク其撰ヲ異ニスルモノニテ、即チ一切ノ行爲ハ一定ノ原因ノ結果ノ發現ニ非ズシテ、其ノ行爲者ノ價值判斷ノ表現ト爲ル。蓋シ吾人自ラガ或ル行爲ノ原動者ナリト自覺シ居ル限リニ於イテハ、自己以外ニ其ノ行爲ノ原因ヲ求ムト云フコトハ、本來思料スベカラザルコトニ屬ス。自己以外ニ其ノ行爲ノ原因ノ求ムベキモノアラバ、其ノ行爲ハ則チ自己ノ行爲ニ非ズシテ、他人ノ行爲ナルカ然ラズンバ自然力ノ作用ナリ。例ヘバ人アリテ余ガ手ヲ捉ヘ、之ヲ以テ他人ヲ毆打セシメタリトセンニ、余ハ之ヲ以テ余ノ行爲ナリト考フルコト無シ。行爲ノ原因自我以外ニ在リテ、己レ自身ヨリシテ之ヲ見ルニ、ソハ明カニ因果ノ連鎖ヨリ成ル外界ノ現象ナレバ也。然ルニ此ノ如キ外界ノ強制ニ本クコト無ク、己レ之ヲ爲サント欲シテ之ヲ爲ス場合ニハ、其ノ行爲ハ自己ノ意識ヲ中心トシテ放射スルモノニテ、之ヲ以テ自己ノ眼前ニ横ハル因果連鎖ノ一節ト看做ス

コトハ有リ得ベカラザル也。固ヨリ他人ヨリシテ之ヲ見バ、余ガ行爲モ因果關係ノ一連鎖ト見エン。乍併、余自身ガ余自身ノ行爲ヲ或ル原因ノ結果ト見ルト云フコトハ、論理ノ矛盾ニシテ思惟スベカラザルコト也。原因ヲ自己以外ニ歸スレバ、余ハ卽時ニ其ノ行爲ヲ以テ自己ノ行爲ト爲スノ意識ヲ失フ。苟クモ之ヲ以テ自己ノ行爲ナリト意識スル限リ、ソハ因果關係ヲ超越スルノ行爲、原因ヲ其レ自身以外ニ有セザルノ行爲タラザルベカラズ。此ノ意識ハ宇宙間最モ確實ナル事實ニシテ、吾人ハ之ヲ疑ハント欲スルモ得ベカラズ。萬物ヲ疑ヒ盡シテ最後ニ殘ル萬人普遍ノ眞智ナリ。固ヨリ吾人ハ自己ノ既往ノ行爲ヲ回想シテ、或ハ慚愧スルコトアリ、或ハ後悔スルコトアリ、而シテ思ヘラク、彼ノ時ハ斯クスレバ善カリシモノヲ、斯ク々々ノ原因ヨリ遂ニ此ノ如キ醜態不得策ヲ演ズルニ至リタリト。扱テ斯カル場合ニハ、吾人ハ吾人自ラノ行爲ニ就イテ一定ノ因果關係ヲ認ムルモノニテ、吾人上來ノ所說ニ違フ所アルガ如キモ、其實此ノ場合ニ於イテハ、謂フ所ノ自己ノ行爲ナルモノハ、今マ其ノ行爲ニ就イテ思惟シツ、アル所ノ其ノ自己ノ行爲タルニ非ズ。其ノ行爲ヲ自己以外ノ世界ニ横へ、科學的態度ヲ以テ之ニ對スルニテ、卽チ自己ノ行爲ヲ内ヨリ見ルニ非ズシテ、之ヲ他人ノ行爲トシテ其ノ行爲ノ外ヨリ之ヲ批判シツ、アル

也。元來吾人ガ、甲ノ行爲ヨリモ乙ノ行爲ヲ價值アリ利益アリト自覺シ意識シツ、乙ノ行爲ヲ爲サズシテ甲ノ行爲ヲ爲スト云フコトハ、吾人ノ考フベカラザルコト也。苟クモ意識者タル以上、甲ノ行爲ト乙ノ行爲トヲ比較シテ、甲ノ行爲ガ乙ノ行爲ニ比シ價值ナク利益ナキコトヲ知ルナラバ、之ヲ知ルト同時ニ、甲ヲ避ケテ乙ニ就クベキ也。サレバ、吾人ガ既往ノ行爲ヲ一ノ客觀的事實トシテ回顧スル場合ニハ、彼ノ時ハ爾カスルヨリモ斯クスレバ善カリシモノヲト思フコトアランモ、現ニ今マ、其ノ行爲ヲ爲シツ、アル際、其ノ行爲自身ノ中心ニ立ツテ之ヲ見バ、ソハ余ガ善シト、思フ、所ヲ爲シ、余ガ爲サント欲スル、所ヲ爲シツ、アルニ外ナラズ。卽チ意識者トシテノ余ニトツテ、其ノ行爲ノ動機トナリ理由ト爲リ得ルモノハ、余ガ衷ニ存スル余ガ意味價值目的ニシテ、余以外ニ存スル或ル他ノ原因ニハ非ズ。余ガ余ノ行爲ノ中心ニ入り、行爲ノ中ニ生キツ、アル間ハ、其ノ行爲ハ凡テ余ガ意味ヲ表現シ、余ガ意味ヲ中心トシテ余ガ世界ニ放射シツ、アルモノニテ、自然界ノ法則ヲ表現シツツ、因果ノ連鎖ニ捉ハル、死物ノ運動タルニ非ズ。而カモ此ノ如キ個人ノ内景ハ、科學的研究ノ態度ヲ採レル我ガ唯物史觀ノ與リ知ル所ニ非ザル也。

關博士ノ指摘サル、所ニ從ヘバ『唯物論者ハ無神論ヲ奉ズル』カルヴィニストヲ

リ、『宗教ハ彼等ニトリテ人ノ頭腦ニ於ケル外部勢力ノ幻影ノミ』、『唯物史觀ハ道德的倫理的價值判斷ヲモ否認セントスルモノ』ナリ、『價值否定主義ハ唯物史觀ト雖ルベカラザル關係ヲ有ス』。吾人ハ先キニ科學ノ世界ハ物質ノ世界ナルコトヲ述ベタリ。故ニ唯物史觀ノ下ニ於イテハ、神アルコト無ク、宗教アルコト無シ。吾人ハ又々科學ノ世界ハ因果ノ世界ニシテ、價值ノ世界ニ非ザルコトヲ述ベタリ。故ニ唯物史觀ノ下ニ於イテハ、一切ノ價值判斷ナシ、ソハ價值ヲ否認(無視)スルニ依ツテ始メテ立ツコトヲ得。博士ノ引用サル、所ノ兩三句、余ハ此ノ如クニ解シテ之ヲ是認スル者ナリ。

四、自然法則ノ支配

以上述ブルガ如ク、一切ノ現象ハ、之ヲ科學的ニ客觀的ニ外部ヨリ觀察スル時ハ盡ク因果關係ノ連鎖ヨリ成ルモノ也。故ニ一切ノ現象ハ、凡テ因果律テフ一大自然法則ノ支配下ニ在ツテ運行シ、一トシテ此ノ法則ノ支配ヲ免ル、モノ無シ。而シテ諸種ノ科學ニ云フ所ノ科學的法則(精確法則、自然法則)ナルモノハ盡ク因果的法則ニシテ、皆ナ彼ノ因果律テフ一大自然法則ノ支分法則ニ屬スルコト、恰モ月ノ光、海ノ光、野ノ光、山ノ光、窓ノ光、廊下ノ光等、凡テ其源ヲ太陽ノ光ニ仰グガ如シ。

今マ之ヲ人間ノ行爲ニ就イテ云フモ亦然リ。苟クモ之ヲ其ノ外部ヨリ唯物的ニ、機械的ニ客觀的ニ、即チ科學的ニ觀察スルナラバ、ソハ凡テ精確法則、自然法則ノ支配スル所ト爲ル。否ナ、人間ノ行爲ニ就イテ苟クモ法則ヲ立セントスルナラバ、吾人ハ人間ノ行爲ニ向ツテ此ノ如キ觀察法ヲ採ルノ外途アラザルモノ也。蓋シ個人ヲ以テ意識者ト爲シ、其ノ行爲ノ中心ニ入り生キタルマ、ニ之ヲ觀察センカ、ソハ前節ニ述ブルガ如ク、其ノ行爲者ノ目的ノ表現ニシテ、或ル原因ノ結果ノ發現ニ非ズ。彼ハ彼レ自身ノ意味アル生活ヲ爲セルナリ。然ルニ意味ハ物質ニアラズ。而シテ物質ニハ只ダ分量ノ差異アルニ止レドモ、意味ニ至ツテハ量化スベカラザル品質上ノ差異ヲ具有ス。意識者ハ斯カル品質上ノ差異ヲ有スル意味ノ中ニ生活スル者ナルガ故ニ、其ノ行爲ハ他人ノ行爲ト共ニ之ヲ概括シ得ベキ性質ノモノニ非ズ。而シテ既ニ概括シ得ベカラザルガ故ニ、彼ハ始メテ其ノ個性ヲ發揮シ、嘗ニ肉體トシテ存在スルミナラズ、之ニ依リテ個人ト爲リ人格者ト爲リ、以テ眞ニ己レ自身ノ生活ヲ送ルニ至ル。之ヲ意味アル生活ト云フ、即チ物體ノ運動ト同カラザル也。而シテ既ニ物體ノ運動ト同カラズトセンカ、ソハ到底科學的研究ノ下ニ法則發見ノ材料トシテ取扱ハルベキモノニ非ザル也。是ノ故ニ人類ノ行爲ニ就キ法則ヲ立セント

スル者ハ、皆ナ先ヅ設クルニ一定ノ條件ヲ以テス。而シテ其ノ條件タル時ニ依リテ必シモ同カラズト雖モ、其ノ取扱フ所ノ個人ガ一定ノ範圍ニ於イテ無意識的ノ性質ヲ有スト云フコトハ、常ニ其ノ條件ノ主ナルモノ、一タリ。今マ試ニ經濟學上ノ法則ニ就イテ之ヲ説明センニ、例ヘバ彼ノ有名ナルマルサス人口論ノ當否如何之ニ就イテハ學者ノ説ク所紛々タリト雖モ、吾人ヲ以テ之ヲ見レバ、此論ノ當否ハ、只ダ其ノ假定條件トシテ人間ノ無意識ヲ前提トスルヤ否ヤニ依ツテ定マル。彼曰ク Population, when unchecked, increased in a geometrical ratio; and subsistence for man in an arithmetical ratio. (Principle of Population, 1st ed. ch. II)

茲ニ when unchecked ト云ヘル條件ニ注意セヨ。此ノ制限ニ就イテ彼ノ説明ニ曰ク

Among plants and animals the view of the subject is simple. They are all impelled by a powerful instinct to increase of their species; and this instinct is interrupted by no reasoning, or doubts about providing for their offspring..... The effects of this check on man are more complicated. Impelled to the increase of his species by an equally powerful instinct, *reason interrupts his career*, and asks him whether he may not bring beings into the world, for whom he cannot provide the means of subsistence,..... (Ibid, ch. II)

マルサスノ所論ハ、一ニ上記ノ文章ニ謂フ所ノ『理性』ナルモノ、力ヲ認ムルノ大
小如何ニ拘レリ。若シ『人口論』初版ニ於ケルガ如ク、此ノ理性ノ力ヲ殆ド無視スルナ

ラバ、人ハ一箇ノ肉塊ニシテ、自然法則ニ從ヒ盛ニ其ノ子孫ヲ増殖シ、其ノ必然ノ結果トシテ社會ニ『貧困』ト『罪惡』トヲ絶ツコト無シ。即チ一定ノ原因ハ必ズ一定ノ結果ヲ伴フ。加フルニ、彼ニシテ斯ル唯物觀ニ立タンカ、前既ニ述ベタルガ如ク、人間社會ハ到底悲觀ノ世界タルヲ免レザルモノニテ、是レ彼ガゴドウキン等ノ理想社會說ヲ極力排斥スルニ至リタル所以ナリ。然レドモ彼ガ後年其ノ說ヲ改メ、所謂『理性』ノ力ノ大ナルヲ認ムルニ至ルヤ、彼ガ先キニ述ベタル社會ノ『罪惡』ト『貧困』トハ大ニ其ノ必然性ヲ失ヒ、而シテ之ト同時ニ、彼ガ最初ノ目的タリシ理想社會說ノ排斥ハ、大ニ其力ヲ弱メラル、ニ至リタリ。吾人ハ今マ人口論ノ評論ヲ目的トスルニ非ザルガ故ニ、只ダ以上ノ點ヲ指摘スルニ止メ置キ、更ニ他ノ一例トシテ、カノ收益遞減法則ノコトヲ一言セン。此ノ法則ガ生産技術及ビ生産組織ノ一定、不變ヲ以テ條件トスルコトハ、普通教科書ニ皆ナ說ク所ナルガ、茲ニ生産技術又ハ組織ノ一定、不變ト云フハ、即チ人間ノ意識ノ一定、不變ト云フコトヲ只ダ此ノ場合ニ具體セシメタルモノニ過ギズシテ、是レ亦タ法則ガ必ズ其ノ對象ノ物質性ニ依存スルノ一例ナリ。思フニ社會現象ニ法則アリヤ否ヤノ問題ハ、今ニ至ルモ猶ホ學者ノ相爭フ所ナリ。然レドモ、吾人ヲ以テ之ヲ見レバ、法則有無ノ論ハ意識有無ノ論ナリ。絶對ニ意

識ナキモノト假定セバ、茲ニ精確法則立チ、完全ナル意識アルモノト假定セバ、法則ナルモノ全ク立スルニ由ナク、而シテ半バ意識アリ半バ意識ナキモノトシテ、此點ニ曖昧不徹ノ態度ヲ採ラバ、法則アルガ如ク無キガ如ク、寧ロ法則ト云フヨリモ傾向ト云フベキモノアリト爲スニ至ル。要スルニ事ノ定マル、吾人ヲ以テ見レバ、皆ナ觀點ノ所在如何ニ在リ。

今マ唯物史觀ハ歴史ヲ科學的ニ研究セントスル者ナリ。否ナ苟クモ歴史ニ法則ヲ立セントスル、吾人ハ凡テ唯物史觀ニ趨ラザルヲ得ザル也。是ノ故ニ余ハ歴史ノ科學的研究者トシテ明白ニ唯物史觀ヲ標榜ス。夫レ唯物史觀ヲ探ルト云フハ、余ハ科學的研究ヲ試ムト云フガ如シ。何ノ怪シキコトカ是レアラン。

此ノ如ク、唯物史觀ハ歴史ヲ科學的ニ研究シテ概括的法則ヲ立セントスル者ナリ。故ニ唯物史觀ノ下ニ於イテハ、關博士ノ指摘サレタルガ如ク、『單一平等ナル發展』ノ歴史ナカルベカラズ。此國ニ起ルベキコトハ彼國ニ起ラザルベカラズ。然レドモ茲ニ一言博士ノ注意ヲ請フハ、此國ニ起ルト云フコト、此國ニ好シト云フコト、ハ、全ク觀點ヲ異ニセル立言ナリト云フコト也。余ガ小著『時勢之變』ハ多ク理想ノ論ヲ爲スコト無カリシト雖モ、只ダ序文中、日蓮ノ言ニ附隨シテ、『彼國ニ好カリシ法、ナ

レバトテ其ノマ、盡ク此國ニモ好シト思フベカラズ』ト云ヘリシ一句アリ。是レ博士ガ太ク答メラル、一句ナレドモ、立言ハ主觀的理想ノ論ニ係リ、客觀的事實ノ説明ニ屬スルニ非ズ。

猶ホ法則論ヲ爲シタルニ因ミテ、一言自由意志ノコトヲ論ジ置カンニ、此ノ自由意志ノ有無ト云フコトモ、學者ノ論爭ノ未ダニ絶エザル所ナリ。乍併、科學ノ世界、法則ノ世界ニ自由意志アラザルコトハ、殆ド自明ノ理ニシテ、其ノ然ル所以ヲ論ズルハ、吾人ヲ以テ見レバ、白晝ニ燈ヲ點ズルガ如キ也。

夫レ因果ノ原則トハ、一定ノ原因アラバ必ず一定ノ現象ヲ生ジ、一定ノ現象ハ必ず一定ノ原因ヲ有スト云フコト也。然ルニ意志ノ自由トハ、意志ノ活動ニハ何等ノ原因ナシト云フコト也。サレバ若シ、凡テノ意志ハ必ず一定ノ原因ヲ有シ、其ノ一定ノ原因ノ必然ノ結果トシテ、始メテ一定ノ意志ノ發動アルモノトスルナラバ、意志ノ自由ナルモノハ全ク有リ得ベカラズ。然ラバ因果原則ト意志ノ自由ト相容レザル、殆ド論ヲ待タズ。乍併、只ダ茲ニ注意スベキハ、此ノ如キハ物質ノ世界、科學ノ世界ニ限ラル、コトニテ、精神ノ世界、直觀ノ世界ニ到ツテハ、事情固ヨリ相反スト云フコト也。例ヘバ人間ヲ以テ一ノ物體ナリト見シカ、ソノ運動ハ、前既ニ詳論シタルガ

如ク、一定ノ原因ニ本ク一定ノ結果ノ發現ナルガ故ニ、其ノ運動ハ宿命的、必然的、旨目的ノ運動ニシテ、譬フレバ機關車ガ一定ノ方向ニ向ツテ走リツ、アルガ如キモノ也。彼等ニトツテハ只ダ現在、ノ一瞬時アルノミニテ、時々刻々現在ニ於ケル所定ノ原因ガ現在ニ於テ所定ノ結果ヲ生ミツ、アル也。各瞬間ニ於ケル機關車ハ全ク孤立、獨立セル事實ニシテ、現在ノ瞬間ニ於ケル機關車ハ、十分前ノ其物トモ十分後ノ其物トモ絶對ニ沒交渉ナリ。例ヘバ其ノ機關車ガ走り出シタル時ノ石炭ナリ水ナリノ供給ガ如何ナリシカト云フコトハ、現在ノ機關車ニトツテ何等ノ影響ナキコト也。縱ヒ如何ニ多クノ石炭ナリ水ナリヲ積ミ居タリトスルモ、是等ノモノガ現在ニ於イテ缺乏シ居ラバ、其ノ機關車ハ只ダ現在ノ事情ニ應ジテ其ノ運行ヲ停止スルノミ。水蒸氣ノ壓力ニシテ猶ホ持續セバ、其ノ持續スル限りノ所ヲ走ルト云フノミ、其力絶ユレバ其ノ運行モ亦タ止ルモノニテ、要スルニ、此ノ如キ物體ノ運動ハ、只ダ其ノ刹那々々ノ現在ノ事情ニ依ツテ定マル也。故ニソハ過去ト沒交渉ナルガ如ク、將來トモ亦タ無關心ナリ。例ヘバ其ノ機關車ノ前進シツ、アル軌道ニ當ツテ、一大妨礙物ノ横リ居ルトスルモ、其事ハ現在ノ機關車ノ運動ニ何等ノ變化ヲ惹起スルモノニ非ズ。而シテ之ト衝突スル時モ、只ダ其ノ衝突ノ刹那ニ於ケル動力ノ強

サヲ以テ之ト衝突スルニテ、掛引遠慮ナド云フモノ毫モ有ルベキ筈ナシ。之ヲ因果ノ世界ニ於ケル宿命ノ現象ト爲ス。然ルニ今マ若シ其ノ機關車ガ自己ノ運動ヲ意識シツ、アリトセバ如何。彼ハ決シテ此ノ如キ盲目的運動ヲ爲スコト無シ。自己ノ行爲ヲ意識スト云フ以上ハ、彼ハ自己ノ目的ヲ有シ其ノ目的ヲ實現セントシツ、アル者ナリ。サレバ其ノ進路ニ妨礙物ノ横ハリ居ルヲ知リ、且ツ之ト衝突スルコトガ自己ノ目的ヲ實現スル所以ニ非ズト知ルナラバ、彼ハ其ノ妨礙物ヲ避ケテ進ムカ、然ラズンバ其ノ運動ヲ停止スルニ至ルベク、又タ之ト輕ク衝突スルヲ以テ自己ノ利益ナリト考フルナラバ、彼ハ速力ヲ緩メテ之ト輕ク接觸スベク、若シ又タ之ト強ク衝突スルヲ以テ自己ノ利益ナリト考フルナラバ、彼ハ從前ノ速力ヲ以テ之ヲ突退^{ツキ}ケテ進ムベク、要スルニ彼ハ其ノ目的ヲ何等カノ方法ニ於イテ實現センガ爲メ、外界ト一定ノ調和ヲ保チ、其ノ行爲ヲ己ガ環境ニ向ツテ順應セシムルニ至ル。コレ即チ自、制、自、律、ノ力ナルモノニシテ、聽テ又タ自由意志ノ働キナルモノ也。吾人ハ先キニマルサスノ人口論ニ就イテ一言セシ際、其ノ『人口論』第一版ニ於ケル彼ノ所論ハ、人ヲ以テ殆ド『理性』ナキ動物ノ如ク看倣シテ立論シタルモノナルガ故ニ、人口増加ノ必然的、結果トシテ社會ニハ『貧困』ト『罪惡』トヲ絶タズト云フノ結論ヲ生ジ

タルコトヲ述ベタリ。然ルニ彼ガ千八百三年ニ於イテ其著ノ第二版ヲ公ニスルヤ、
彼ハ人ニ理性アルヲ認ムルニ至リシガ故ニ、カノ貧困ト罪惡トハ俄ニ其ノ必然性
ヲ失ヒシト同時ニ、之ニ代リテ新タニ彼ノ所謂『人爲的制限』moral restraintナルモノ
ノ發生ヲ見ルニ至リシモノニシテ、即チ因果ノ連鎖ニ依リ必然的盲目的運動ヲ爲
スノ物體タルニ止リシ人類ハ、カクテ新タニ、其ノ目的ニ向ツテ自己ノ行爲ヲ調整
スルノ力ヲ有スル自制自律、自主自存ノ人格者タルニ至リシモノ也。思フニ彼ノ所
說ハ、前論後論共ニ徹底スル所ナキモ、而カモ前論ト後論ト全ク其ノ觀點ヲ異ニス
ルコト上述ノ如クナルガ故ニ、其說ノ内容ハ爲メニ一變セザルヲ得ザリシモノニ
テ、此事ハ、現ニ彼ガ其著第二版ノ序ニ於イテ『此ノ訂正本ハ之ヲ一ノ新著トモ見ル
ヲ得ベシ』(in its present shape, it may be considered as a new work.)ト云ヘルニ徴シテモ、亦
タ甚ダ明白ナリ。之ヲ要スルニ、物質ノ世界ハ原因、結果ノ世界、束縛、妨礙ノ世界ニシ
テ、又タ必然、宿命ノ世界ナレドモ、目的ノ世界ハ自由、意志ノ世界、融通、無礙ノ世界ニ
シテ、又タ自發創造ノ世界ナリ。而カモ唯物史觀ハ物質ノ世界ヲ見テ、目的ノ世界ヲ
見ズ、因果ノ世界ヲ見テ意識ノ世界ヲ見ズ、他動的運動ノ世界ヲ見テ自發的創造ノ
世界ヲ見ズ。是レ其ノ個人ノ『運動』ヨリ成レル人類ノ歴史ヲ以テ、外圍物境ノ所產ト
爲ス所以ナリ。(未完)